

続・断捨離風雲録

「館長さんスペースがありますが、何か書きませせんか。」職員のお勧めで始めたこの連載も、今回で18回目になりました。これまで一番反響のあったのは、昨年9月の「愛しの朝ドラ女優たち」でしたが、先月の「断捨離風雲録」の反響は、これをはるかに上回るものでした。

先月号の内容は、病院の待合室での、ご婦人と看護師さんとの会話でした。その中で彼女は「終活のために不要物を捨て始め、すっかり片付いた。」と話し、「一番捨てたいのは亭主だが、金づるなので捨てられない。」と仰るのです。反響のうち、彼女に熱烈な共感を寄せるのは、歴戦のお姉様方。

「ほんに邪魔だが！」

「ズバリあのとおり

だわね！」

「読むたびに笑い転

げたわ！」

「私も言ってみたくもんだわ！」

これに対し男性軍の反応は「面白かった」とは言うものの、

「あれはよそ様のこととで我が家とは無縁である。」

「うちの家内に限って、そんな不埒なことを考えるはずがない。」

そんな心の内が透けて見えません。

何という危機感の欠如！これを脳天気と呼ばずして何と呼びましょう。この絶望的な男女間のギャップ。願わくは男どもに神のご加護を！